

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071000865		
法人名	株式会社 エレガンス		
事業所名	グループホーム 愛あい 本社		
所在地	福岡市中央区福浜2-1-5 〒810-0066 (電話) 092-781-8000		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年9月7日	評定確定日	

【情報提供票より】(平成19年8月31日事業所記入)

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人 常勤	12 人 非常勤	5 人 常勤換算 6.51 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造陸屋3階建 造り 3 階建ての～ 2～3 階部分		
------	--------------------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3万5千～5万5千 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(25万～30万 円) 無	有の場合 償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,400 円程度	

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2		7 名	
要介護3	3 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名				
要支援1	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.9 歳	最低 63 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡記念病院 たけとみクリニック ももちすこやかクリニック 白本歯科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福岡市観光地の一つファードームへ通じるよかトピア通りに面した3階建ての建物である。建物には「愛あい本社」の大きな看板があり、広く大きな玄関に入ると1階に併設されたサービスから歌声が聞こえ活気ある様子が伝わってくる。2階3階がホームとなっており、エレベーターで訪れると、入居者や職員が「いらっしゃい」と笑顔で迎えてくださる。建物は集合住宅型建物を改築し平成15年に開設されたもので、入居者が高度経済成長に貢献してきた昭和40年代を思わせる、どこか懐かしく、グループホームというより集合アパートのようである。共用のソファに腰掛けた入居者は、互いを「ご近所さん」と呼び合い、近所付き合いを楽しんでいるような様子である。地域密着型サービス制度化以前より地域貢献を目指し、地域高齢者の支援活動の中核として、様々な活動に取り組んでおり、この地域を巻き込んだ活動は行政は勿論、他の地域からも注目を浴びている。

【重点項目への取組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を運営推進会議や家族会で報告し、ミーティング時に全職員で評価内容を協議し、環境整備や記録の充実、看板の設置等の改善への取組みがある。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価にあたり、全職員で評価の意義や目標等について確認をおこない、自己評価により事業所の現状と課題等の理解に努めている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 入居者・家族・自治会・民生委員、地域包括センター職員、行政担当のソーシャルワーカー、学校関係者を招き、2ヶ月に1度、定期的を実施している。運営推進会議において、事業所の紹介や外部評価の報告、事業所の地域行事や公民館活動への参加などの検討がなされ、また、事業所主催の行事の案内方法について積極的に意見をいただくなどの成果が見られる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 年に2回、家族会を開催し事業所への意見等を提案する機会を設けて、敬老会等のイベントに対するアイデアや意見等が出されている。苦情、不満に関しては窓口を掲示し、面会時に家族からの意見の聴取に努め、職員会議等で検討し協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者と職員の地域行事への参加や、日常の買い物や散歩などを通じての、地域との交流への取組みがある。また、地域の住民や商店街、校区育成会、大学関係者等で組織した地域高齢者支援グループ「ご近所応援団」の中核とし地域活動に取り組んでおり、地域の世代間交流や地域全体の支えあい活動の活性化へ大きく貢献している。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設時につくられた保健・医療・福祉の連携を掲げ た理念・方針に地域との連携を加え、地域への貢献 や、地域高齢者の地域生活の継続を支える支援等を 掲げ、事業所独自の理念・方針を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に理念・方針を伝え、十分理解できるように 説明している。毎日の朝礼や職員会議で唱和したり、 理念・方針を各ユニットごとに掲示し、職員・入居者と ともに常に目にしながら、理念の実践に努めている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	入居者と職員の地域行事への参加や、日常の買い物 や散歩などを通じて、地域との交流への取組みがあ る。また、地域の住民や商店街、校区育成会、大学関 係者等で組織した地域高齢者支援グループ「ご近所 応援団」の中核とし地域活動に取り組んでいて、地域 の世代間交流や地域全体の支えあい活動の活性化 へ大きく貢献している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果を運営推進会議や家族会で報告 し、ミーティング時に全職員で評価内容を協議し、環 境整備や記録の充実、看板の設置等の改善への取 組みがある。今回の評価にあたり、全職員で評価の 意義や目標等について確認を行ない、自己評価によ り事業所の現状と課題等の理解に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・家族・自治会・民生委員、地域包括センター職員、行政担当のソーシャルワーカー、学校関係者を招き2ヶ月に1度実施している。会議では事業所の紹介、外部評価の報告、ホームからの地域行事や公民館活動への参加、ホーム行事の地域への案内方法などが積極的に話し合われる場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣校区のグループホームで結成した「徘徊ネットワーク」と行政との連携による、地域高齢者支援活動への取組みがある。また、ホームに対して、行政からの適切な指導やアドバイスが必要な場合には、相談を重ねるなどし、入居者の生活の質の向上に共に取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム全体で地域権利擁護事業や成年後見人制度の研修会を行なっている。今回の自己評価を行なう際にも再度勉強会を開催する等の取組みがある。入居者や家族へは、契約時や運営推進会議時に制度や利用手順等について説明しており、実際の活用への支援も行っている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話連絡や家族面会時に報告したり、毎月、ホームだよりを送付している。遠方に住む家族には日々の暮らしぶりやエピソードを記録した生活状況表をホームだよりと一緒に郵送し本人の近況等を知らせている。職員の異動については家族の面会時や家族会等で報告している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会を開催し、事業所への意見等を提案する機会を設けており、敬老会等イベントに対するアイデアや意見等が出されている。苦情、不満に関しては窓口を掲示し面会時に家族の意見の聴取に努め、出された意見等を職員会議等で協議するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から、職員の退職時に入居者へ挨拶を行うことにより、職員交代の際に入居者に不安を与えないように努めている。また、日頃より、ユニット間による職員の交換を行い、入居者とのかかわりを築き、離職の際にも入居者の不安を少なくするための工夫がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっての性別や年齢の制限はなく、本人のやる気と就労に必要と思われる体力等を考慮している。入職後は、それぞれの特技や長所を活かし、資格取得や自己実現ができるように勤務調整を行う等の支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政主催の実践研修等に、人権教育についての項目も含まれており、研修受講後、スタッフミーティング等で報告会を行ったり、勉強会を開くなどの取組みがある。		高齢者や福祉に関わる問題に加えて、広義の人権問題について理解を深めるため、行政主催の研修会等に参加したり、行政より講師を招聘し勉強会を開催するなど法人全体での啓発活動への取組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を希望する職員については、定期的な勉強会の他に、業務時に先輩職員による、資格取得のポイント指導を意識的に行なうなどの取組みがある。外部研修の情報は全職員が閲覧できるように綴じてあり、職員の希望に応じて勤務調整を行ったりして、職員に応じた研修の参加実績がある。また、受講後は報告会を行うなど全職員への周知の体制がある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣校区の介護保険事業所が地域高齢者支援活動に参加しており、本職員が窓口となって、他の介護事業所職員とイベント活動や勉強会を通じて交流を深めている。また、同活動を通じて、同業者間で世代別の交流ができる機会を計画中である。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や体験入居などを通じて、ホームの雰囲気や職員、他の利用者に徐々に馴染んでいただけるように支援している。また、入居後は職員が寄り添い、ゆっくとあたたかく対応しながら入居者の不安の軽減に努めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりの中で、入居者から食事の作法や料理の下ごしらえ等を教わりながら支えあう関係を築く取り組みがある。希望や意向の表出が少ない入居者については、食事や会話等を通じて気持ちを分かち合い、共に支え合う関係づくりに努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から思いや意向を聴取するとともに、入居後は入居者のホームでの様子や日々の会話を通じて思いや意向を把握し、カンファレンスや記録等にて職員全体で共有している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居に際し入居者・家族および関係機関から情報を把握し、入居後一週間以内に集中してアセスメントを行い、介護計画書原案をカンファレンスにて協議する取り組みがある。入居者、家族の意向や心身の状況を全職員により検討し、職員全員で支援方針を共有し介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新た な計画を作成している	毎月のカンファレンスで入居者の状況の 情報交換やモニタリングを行い、入居者 一人ひとりの情報や方針を職員全員で 共有する体制がある。介護計画の見直 しは6ヶ月に1度定期的実施し、入居者 の状況の変化や本人・家族の要望に応じ て、その都度、見直しを行うなどの取 組みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を 活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、か かりつけ医への通院介助等の支援が ある。また、地域の自治会主催の勉 強会に職員の講師派遣を行ったり、 他地区の民生委員の見学の受け入れ などの取り組みがある。		
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と 事業所の関係を築きながら、適切な 医療を受けられるように支援してい る	かかりつけ医への受診は原則家 族対応とし、家族対応が困難な場合 はホームにて支援するなどの取組み がある。歯科等、協力病院での受診 希望者は週に2回の往診があり、 耳鼻科や眼科も近隣の病院受診へ ホームとして支援するなど、地域の 医療機関とも連携を密にとっている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の 共有 重度化した場合や終末期のあり方 について、できるだけ早い段階から 本人や家族等ならびにかかりつけ 医等と繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	家族会で医療連携、重度化や終 末期のホームとしての対応について 説明している。入居者の心身状況 の変化に応じて家族、看護師、医 師、管理者、職員を交えて具体的 協議を行い、そのつど本人や家族 の意向を確認しながら、方針を共 有し支援する取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保を徹底するために、職員が入室 する際は、その都度許可を取るなどの手順を決めて いる。言葉かけや対応についての勉強会を設け職員 全体で入居者への対応についてを検討している。個 人の記録等についても規定を設け、施錠ができる場 所にて管理している。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事や入浴、外出等、入居者一人ひとりのペースに 合わせた対応が見られた。入居して間もない入居者 や自己決定が難しい入居者は職員がさりげなく寄り 添い、本人の意向や希望を確認しながら支援してい る。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食材の買い出し、調理の下ごしらえ、盛り付け、配 膳、片付け等を職員と入居者が一緒に行っている。一 人ひとりの好みを把握し、身体的、宗教的に禁忌とさ れる献立などにも十分配慮し、安心して食事が楽しめる 雰囲気づくりに努めている。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	原則、週3回の入浴とし、本人の希望にそって、毎 日の入浴や清拭なども行っている。また、夕食後の入 浴にも対応し、入居者の意向や習慣に応じた支援が ある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	入居者と相談しながら、ドライブや音楽鑑賞、レク レーションなど、趣味活動等に参加していただき、入 居者の張り合いや喜びを見出し、支援していく取り組 みがある。意向や喜びの表出が少ない場合も、入居 者と職員相互が信頼関係を築いた上で、その人の興 味や楽しみ、張り合い等を汲み取る支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	毎日の買い物、週3回のドライブ、毎月1回の外食 が行われている。また、本人の希望による公共交通 機関や自転車を利用した外出を安全に行うため、行 政や地域住民との連携を取りながら支援する取組み がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は、1階の玄関と各ユニットごとのエレベータ共 に開錠されている。職員は入居者の様子を常時見守 り、さりげなく声をかけたり、一緒に出かける等、入 居者一人ひとりの暮らしへの支援と安全面への配慮が ある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、ホーム独自で消防・避難訓練を実施して いる。地域の協力体制については自治会や高齢者支 援グループ、運営推進会議等で呼びかけを行い、災 害時の対策について、ホームだけでなく、地域全体に とって有益となるような体制作りを目指している。		計画中である地域と一体となった防災訓練等の実 施への取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	献立は各ユニットで入居者の好みや宗教的習慣、 栄養バランス等を考慮して入居者と話し合いながら決 めている。カロリー摂取量や栄養バランス、心身状況 に応じた食事を提供している。食事と水分摂取量につ いては個別記録している。特別な制限や補給の必要 性がある場合については詳細な情報と手順等を共有 しながら支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には案内版があり、各ユニットの入り口には、 間接照明や置物、飾りなど落ち着いた空間作りへの 工夫がある。採光やテレビの音も程よく配慮され、季 節感を意識的に取り入れた装飾などを施している。築 30年位の建物で、壁紙やドア等、随所に当時の雰囲気 を残し、どこか懐かしい空間は穏やかで居心地良く 感じられた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室に設備しているものは空調のみで、寝具や家 具、日用品からカーテン等も全て本人のものを持ち込 まれ、環境の変化を最小限にとどめながら居心地の 良さに配慮している。居室には、手作りの陶器や、家 族の写真、祭壇など、入居者にとって居心地良く過 ごせる工夫が見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号